

平成 28 年度 一番茶萌芽・生育状況報告

佐賀県茶業試験場

1. 萌芽期

本 年	前 年	平 年
4 月 3 日	4 月 1 日	4 月 1 日

注) 平年値は前 5 カ年の平均。

2. 生育状況

調査日		4 月 5 日	4 月 10 日	4 月 15 日	4 月 20 日	4 月 25 日	4 月 30 日
芽 長 (cm)	本年	0.65±0.20	2.03±0.69	4.13±0.93	6.83±1.13	10.04±1.52	12.98±1.82
	前年 (予備園)	0.96±0.42 (1.00±0.43)	2.14±0.69 (2.62±0.94)	3.71±0.93 (4.57±1.33)	7.06±1.16 (8.07±1.69)	9.32±1.27 (11.62±1.84)	
	平年	0.72±0.65	1.43±0.57	2.46±0.79	4.96±1.26	7.26±1.52	8.70±1.75
葉 数 (枚)	本年	0.30±0.20	1.35±0.44	2.48±0.49	3.34±0.43	4.19±0.40	4.68±0.52
	前年 (予備園)	0.68±0.51 (0.79±0.68)	1.74±0.52 (1.80±0.53)	2.40±0.48 (2.64±0.72)	3.23±0.45 (3.73±0.60)	3.89±0.42 (4.24±0.61)	
	平年	0.28±0.31	1.02±0.61	1.68±0.52	2.64±0.52	3.47±0.48	4.10±0.52

3. 晩霜と最低気温

終霜月日	本年 3 月 29 日 (2.7℃)	前年 4 月 9 日 (3.9℃)
最低極温	本年 1 月 24 日 (-6.8℃)	前年 1 月 23 日 (-4.1℃)

注) 終霜月日は最低気温 4℃以下を目安に判断した。

4. 供試茶園の概況

- (1) 品 種 名 : やぶきた
- (2) 樹 齢 : 44 年生
- (3) 植栽様式 : 畝幅 180cm 株間 50cm 条間 50cm (二条植え)
- (4) 樹 高 : 62 cm
- (5) 株 張 り : 152cm
- (6) 施 肥 量 : N : P : K = 50 : 20 : 18 kg/10a (年間 7 回分施)

5. 概要

1) 気象条件(茶業試験場内観測)

(1) 気温

昨年からの暖冬傾向により、1月上旬の平均気温は6.9℃で、平年より約3℃高く推移した。1月中・下旬の平均気温は平年並みであったが、1月24、25日に記録的な大雪が見られ、最低気温は-6.8℃、-6.2℃であった。2月上旬から3月下旬までの平均気温は、2月中旬と3月上旬を除いて、やや低く推移した。

一番茶新芽生育期の4月上旬から4月下旬までの平均気温は、概ね平年より高く、4月上旬は15.3℃で平年より3.0℃、4月中旬は14.8℃で平年より1.3℃高かった。

(2) 降水量

積算降水量は1月70.5mm(平年比143%)と平年より多く、2月85.0mm(平年比70%)、3月88.0mm(平年比58%)は平年より少なかったが、4月310mm(平年比188%)は、平年より多かった。1月～4月下旬までの期間降水量は平年比114%であった。

(3) 日照

積算日照時間は1月60.2時間(平年比46%)、2月119時間(平年比102%)、3月163.1時間(平年比91%)、4月124.2時間(平年比66%)であった。

(4) 降霜

一番茶萌芽前の3月25～29日に低温(最低気温2.1℃、-0.2℃、2.6℃、0.4℃、2.7℃)に遭遇したが、萌芽期以降の降霜はなく、最終降霜日は3月29日であった。

2) 萌芽後の生育状況

周辺の早生品種においては、例年になく芽揃いが良好であった。

本年の萌芽期は、4月3日で、平年より2日遅かった。その後、昨年同様に萌芽直後の気温が高く推移し、この間に新芽の伸長、葉の展開が急激に進んだ。その後は平年並みの気温に戻ったため、摘採日は平年+1日で、ほぼ平年並みとなった。

萌芽から摘採までの所要日数は27日間(積算温度414.6℃)と平年の29日間(積算温度392℃)よりも2日短かった。

3) 病害虫の発生状況

作況調査園において、一番茶の生育および収量に影響を及ぼすほどの病害虫の発生はなかったものの、作況園とその周辺茶園では全般にクワシロカイガラムシの寄生とマダラカサハラハムシの被害が散見された。

平成 28 年度 一番茶実収報告

佐賀県茶業試験場

1. 摘採日

本 年	前 年	平 年
4 月 30 日	4 月 27 日 (予備園 4 月 27 日)	4 月 29 日

注) 平年値は前 5 カ年の平均、下段は予備園。以下の表も全て同じ。

2. 生葉収量 (kg/10a)

本 年		前 年		平 年	
収 量	指 数	収 量	指 数	収 量	指 数
607.0±91.0	100	618.3±41.7 (355.7±44.3)	102	606.0±33.9	100

3. 百芽重 (g)

本 年		前 年		平 年	
重 量	指 数	重 量	指 数	重 量	指 数
76.0±9.0	123	66.7±6.0 (92.5±7.2)	109	61.4±5.0	100

4. 新芽数 (本/m²)

本 年		前 年		平 年	
芽 数	指 数	芽 数	指 数	芽 数	指 数
1291±146	85	1419±232 (867±165)	93	1527±151	100

5. 出開度 (%)

本 年	前 年	平 年
31.9±12.8	47.6±9.3 (17.3±9.8)	45.5±9.1

6. 作況調査園の概要

1) 摘採日

本年の摘採日は、4 月 30 日で、前年より 3 日、平年より 1 日遅かった。

2) 収量

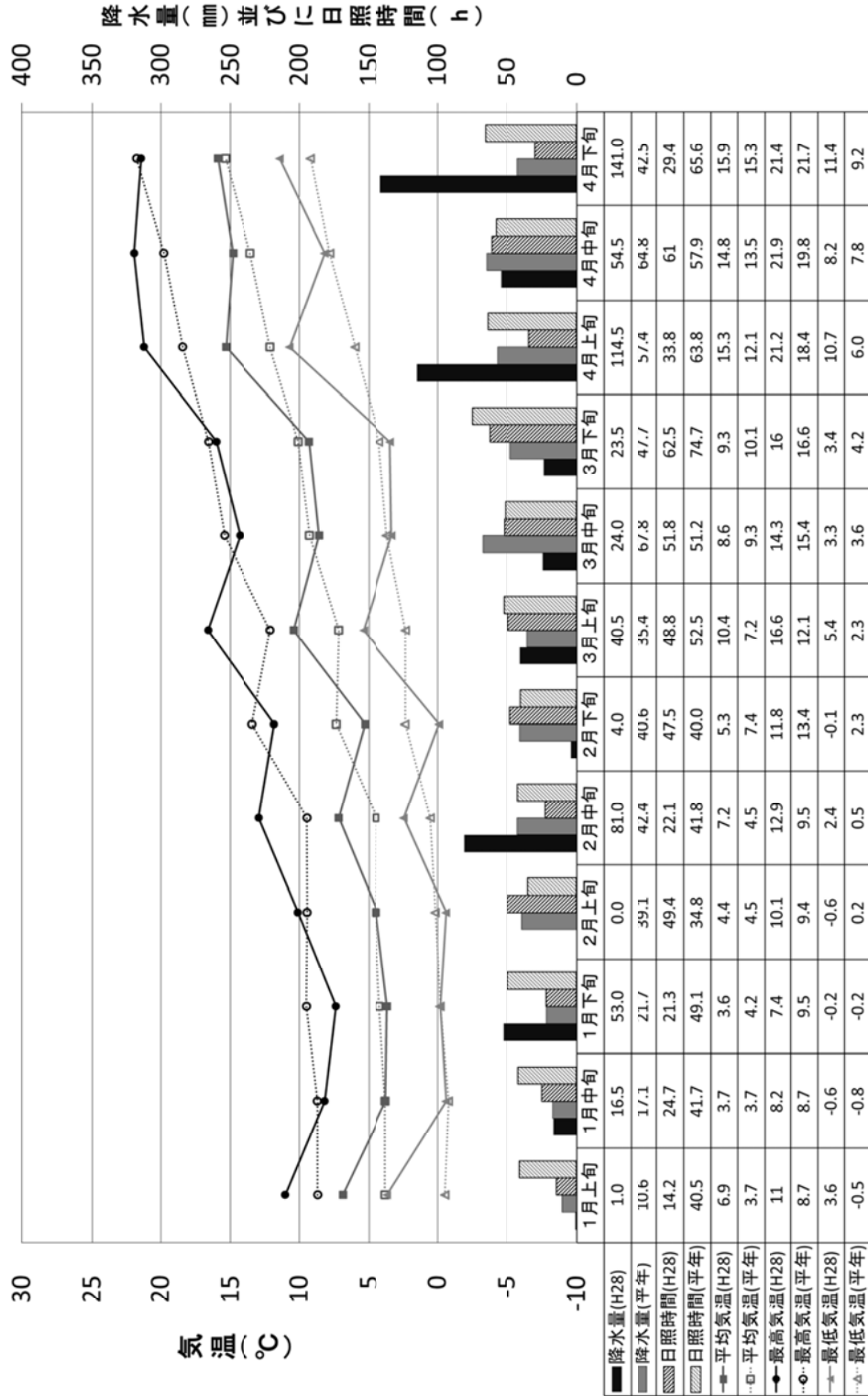
本年の収量は、607 kg/10a で前平年並みであった。

7. 本県の概要

1 月下旬に記録的な冷え込みが観測されたが、新芽への影響は見られなかった。2 月下旬から 3 月上旬の平均気温が平年よりも低く、周辺地域において早生～中生品種の萌芽期は平年並みかやや遅れる傾向であった。山間部では、3 月下旬の晩霜の影響を受け新芽の生育が遅れた茶園も見られたが、地域全体では、新芽生育期間を通して晩霜害の影響は例年より少なかった。4 月上旬の平均気温は平年よりも概ね高く、早生品種では芽揃いが良好で、その後の新芽生育も順調であった。中生品種は 4 月下旬以降の天候不順、日照不足の影響から、生育期後半の新芽生育は緩慢な傾向であった。

病虫害の発生状況について、4月の県内巡回調査でカンザワハダニは成虫の寄生葉率が3.6%（平年4.1%）で、平年並みであった。チャノミドリヒメヨコバイ及びチャノキイロアザミウマはたたき落とし虫数が0.6～0.7頭と少なく実害はなかった。なお、近年はマダラカサハラハムシによる被害が散見される。

気象概況
(平成28年1月下旬～4月下旬・嬉野市)



注1) 測点:嬉野アゲダスポイント
2) 平年値は過去5か年の平均